



兵庫県最大の河川  
加古川河川改修の取り組み

加東市長 岩根 正

# 加東市のプロフィール



人口 39,017人  
世帯数 18,008世帯  
面積 157.55km<sup>2</sup>

※R8年4月末時点

2006年に社町、滝野町、  
東条町が合併

✿ 今年市制20周年を迎えました ✿

# 酒米の王様 山田錦

全国**100以上**の酒蔵で当市の米が採用され、  
各地のこだわりの酒造りを支えています。



吉田  
類



加東市産  
山田錦  
PR大使



# アーバンスポーツの推進

## BMX



## ロードバイク



## パークール

# 加古川の概要

## 流域の概要

流域人口	約64万人
幹線流路延長	96km
流域面積	1,730km <sup>2</sup>

兵庫県の面積の  
約20%!!



# 加古川の概要

## 過去の災害実績

発生年月日	原因	洪水流量 (m <sup>3</sup> /s) 国包地点	被害の状況
昭和20年 10月9日	台風20号（阿久根台風）	7,800 ～9,000	死傷者31人、浸水面積不明 床上・床下浸水400戸
昭和45年 6月15日	梅雨前線	2,500	死傷者不明、浸水面積818ha 床上浸水9戸、床下浸水25戸
昭和51年 9月13日	秋雨前線及び 台風17号	3,000	死傷者1人、浸水面積5,923ha 床上浸水143戸、床下浸水1,657戸
昭和58年 9月28日	秋雨前線及び 台風10号	5,000	死傷者不明、浸水面積1,013ha 床上浸水368戸、床下浸水1,666戸
平成2年 9月20日	台風19号	3,500	死傷者不明、浸水面積612ha 床上浸水47戸、床下浸水3,124戸
平成16年 10月20日	台風23号	5,700	死傷者1人、浸水面積1,447ha 床上浸水430戸、床下浸水1,222戸
平成25年 9月14日	台風18号	5,500	浸水家屋5戸、浸水面積10ha
平成30年 7月7日	梅雨前線	4,600	浸水家屋12戸、浸水面積25ha

本川から溢水

1,600戸以上の  
浸水被害



戦後最大規模

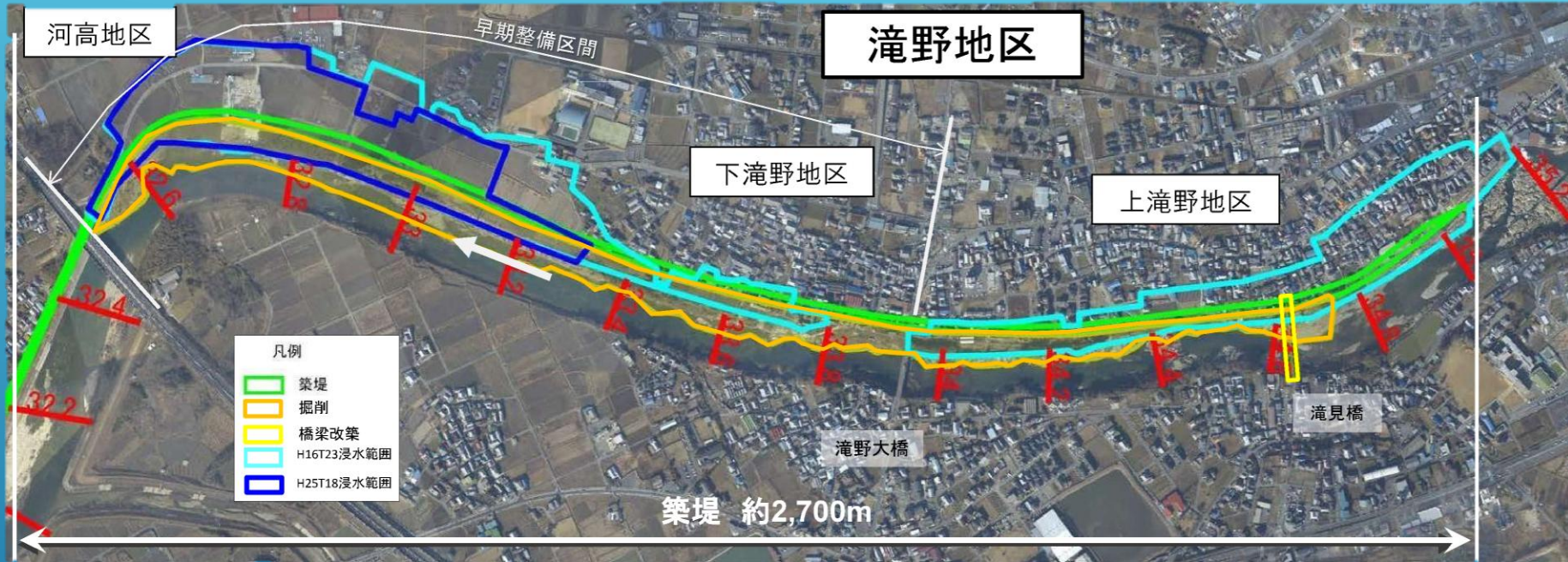
# 河川改修事業 現在の事業状況

- ・ 県の激特事業や国の緊急治水対策は完了したが、依然浸水被害が発生している加古川中流部の無堤区間において治水対策を実施。
- ・ 当該河川整備による流量増に対応するため、下流部において段階的な河道掘削を実施。

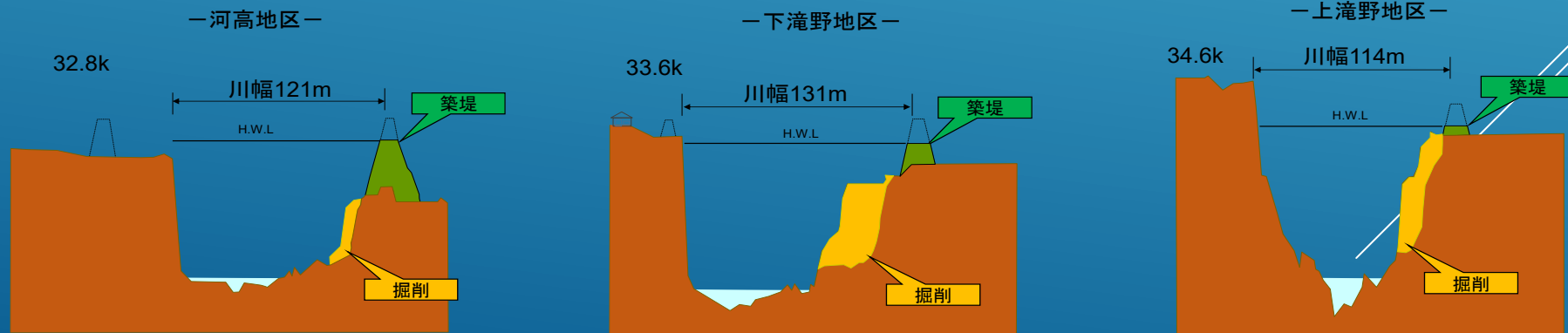


# 河川改修事業

## 加古川中流部緊急治水対策事業(滝野地区)



【計画横断図】



# 河川改修事業

## 加古川中流部緊急治水対策事業(滝野地区)

河高・下滝野地区



整備前

下滝野地区



上滝野地区 滝野大橋上流



上滝野地区 滝見橋



before

無堤箇所築堤

掘削・築堤

掘削・築堤

掘削・築堤

整備後



after

地元小学生向け現場学習イベント

# 河川改修事業

## 滝見橋(市道橋)架替え



現場見学会



滝見橋写生会



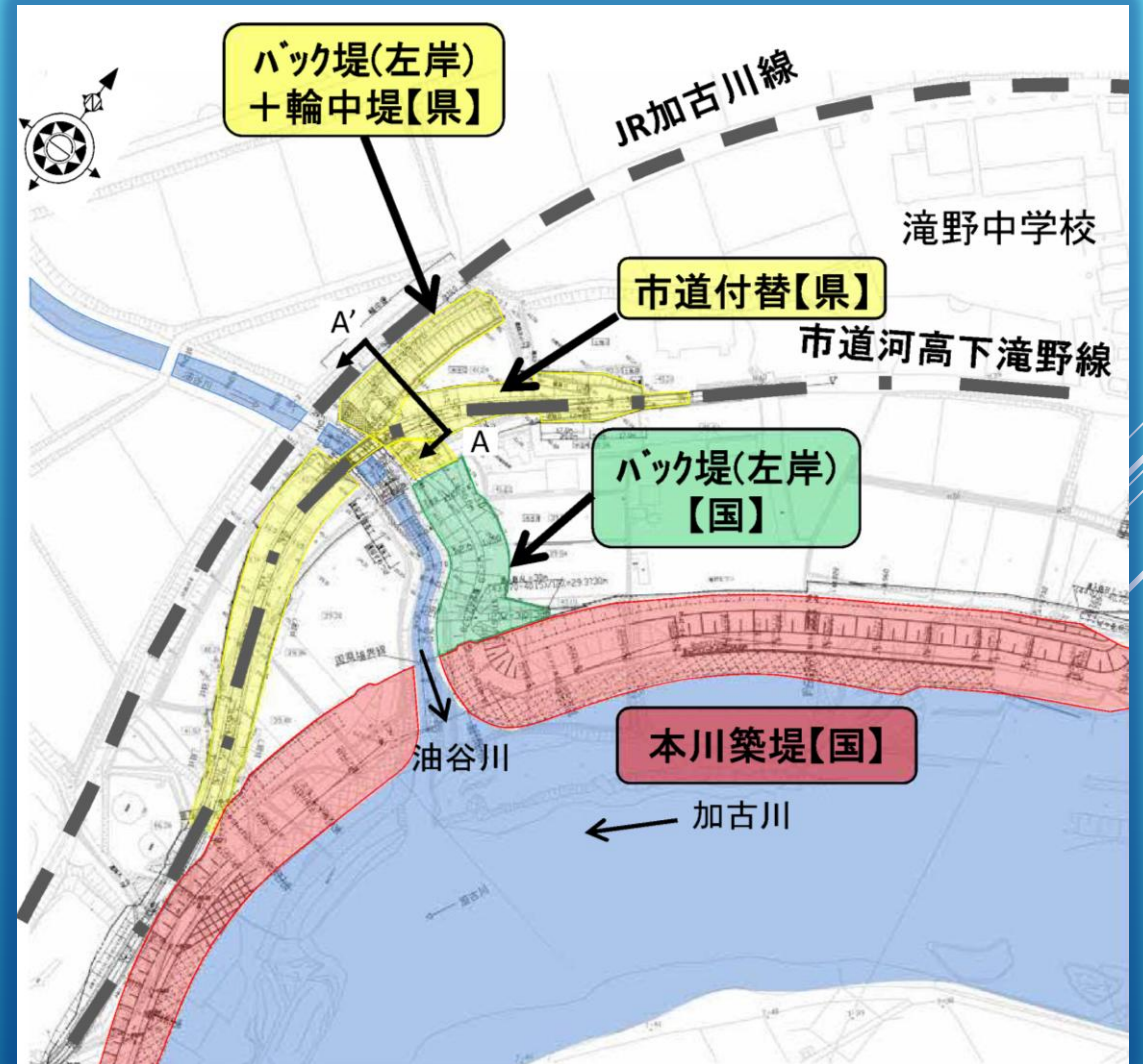
○平成28年9月より工事に着手、令和2年7月完成。  
○超大型オールテレーンクレーン(650t吊)での架設により、環境影響の低減とともに工期を守った。

# 河川改修事業

## 油谷川(支川)バック堤の整備

- ・兵庫県管理河川の油谷川では、国管理の加古川本川の堤防嵩上げに併せて、周辺家屋を守るためのバックウォーター対策を進め、令和5年9月に完成。
- ・油谷川の堤防嵩上げに伴い橋梁（堀田橋）架け替えが必要となり、県が加東市道を付け替え。

現地写真(令和7年12月)



# 河川改修事業

## 下流部の河道掘削（河道断面不足）



**工業**が盛んな播磨臨海地域をかかえる下流部では、上流部の河川整備に先行して河道掘削等により流下能力の増大が図られている。

河口部付近における掘削においては、水深が深いことから**グラブ浚渫船**を採用。

掘削時期については、**海苔**の養殖や**シラスウナギ**の遡上時期に配慮する必要があり、限られた工期の中で効率的に掘削を実施。

### 【掘削可能時期】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出水期						■	■	■	■	■		
海苔の収穫										■	■	■
シラスウナギの産卵	■	■	■	■	■							
水中掘削可能期間						■	■	■	■			

※台船掘削のため出水期の施工が可能

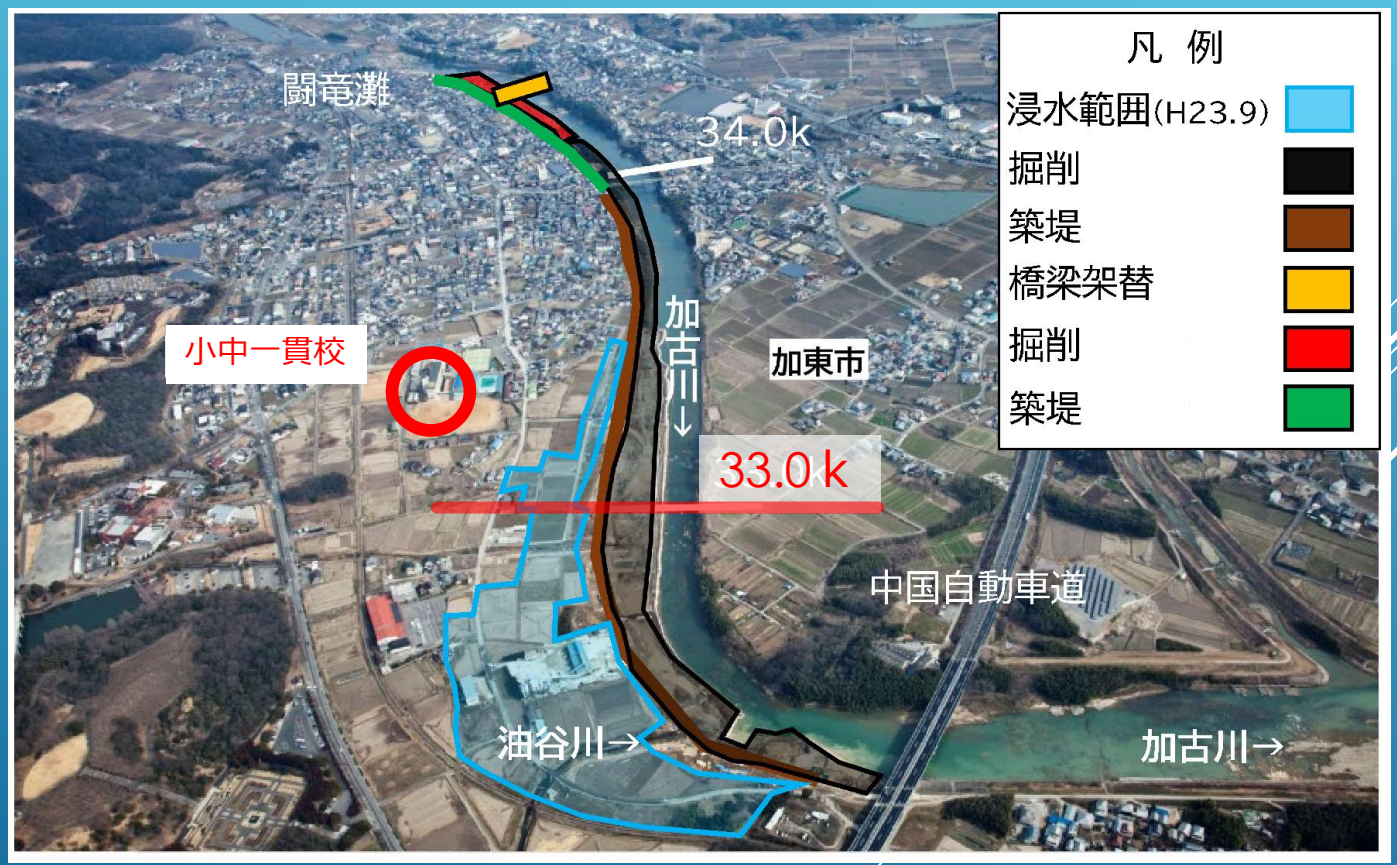
# 河川改修事業 事業効果(成果)

■ 兵庫県加東市河高地先 (加古川33.0 k 付近)



水位を低下させ、  
浸水被害を軽減

# 治水安全度の向上により、 小中一貫校建設に向けた課題を解消



# 河川改修事業 地域文化への配慮



親水施設『階段護岸』

イベントにも活用!!



階段護岸からの眺め

# 河川改修事業 地域文化への配慮



河岸へ降りる階段

子供たちの恒例行事  
『稚鮎の放流』にも活用予定



# 加東市の取り組み(重層的な防災)

## ①雨水ポンプ場の整備



吐出量 $192\text{m}^3/\text{分}$

25mプール  
約1杯分



# 加東市の取り組み(重層的な防災)

## ②農地の活用

農地を“雨水の受け皿”として活用



約600万m<sup>3</sup>を一時貯留



東条湖の有効貯水量の  
約7割に相当



# 加東市の取り組み(重層的な防災)

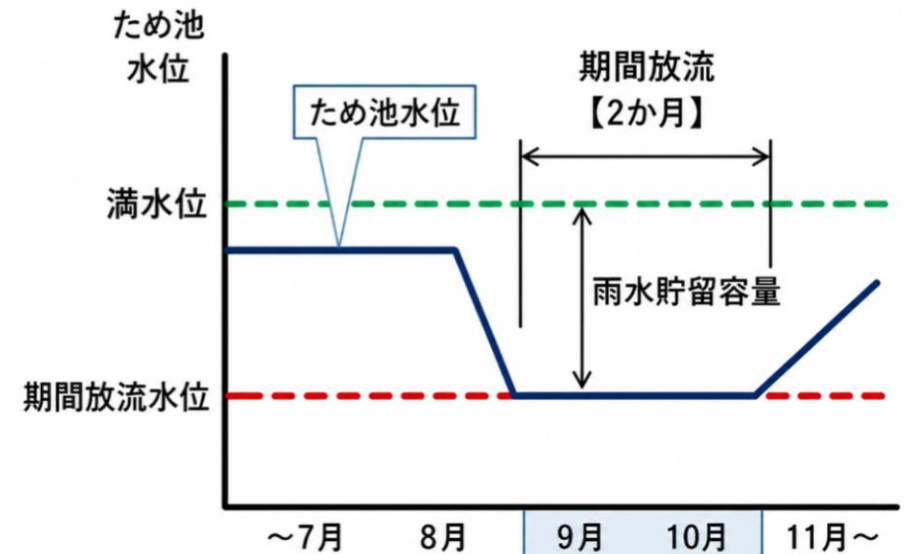
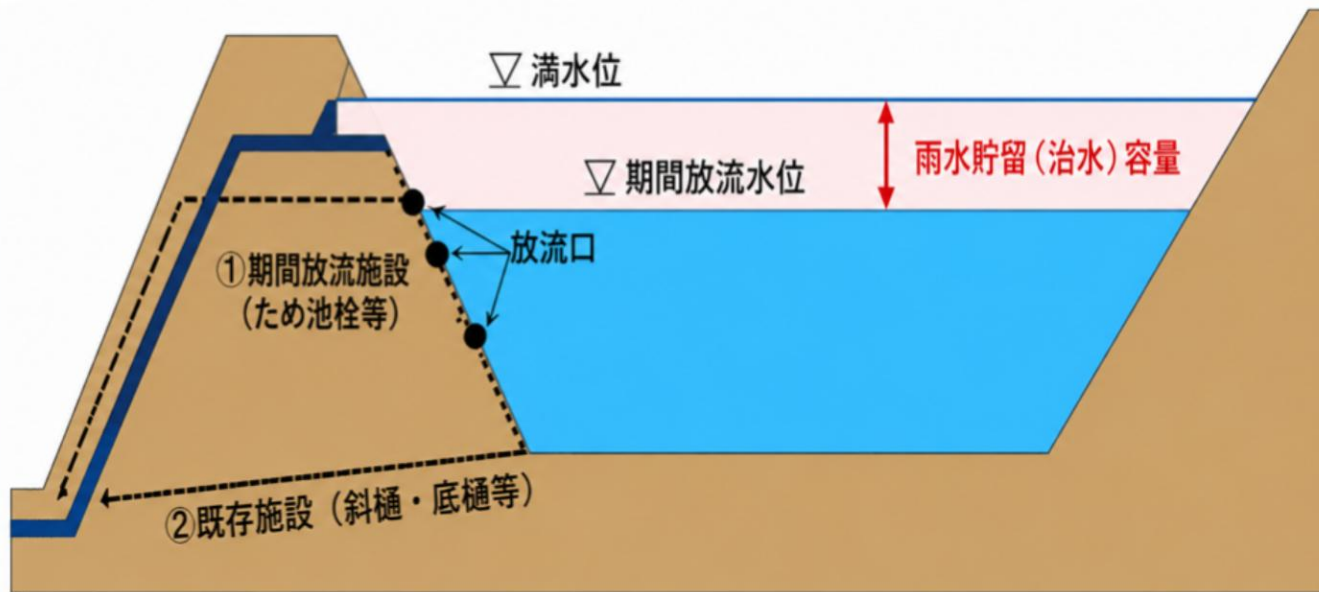
## ③ため池の活用

### <概要>

ため池の事前放流により雨水を一時貯留し、河川の急激な増水や浸水被害、ため池決壊リスクを軽減する。

### <実績>

○指定ため池数 97か所



# 重層的な防災

## ④校庭の雨水貯留

- ・令和7年4月開校の社地域小中一貫校では、兵庫県条例に基づく重要調整池に加え、任意の調整池も整備し、雨水流出抑制機能を強化。
- ・同様の対策は令和3年4月に開校した東条地域小中一貫校でも実施しており、校地の地下に貯留施設を設けている。



## まとめ

- ① 河川工事は1年前倒し完成、工事期間中から事業効果発揮
- ② 地域文化を大切にした河川改修
- ③ 流域治水の取組も必要・・・地域の資源を最大限利用
- ④ 河川改修進捗などに合わせた柔軟な防災体制

**河川整備**が地域の景色を変えるように、私たち自治体側もその変化に適応し、さらなる防災力強化に向けて“**進化**”し続けましょう。

ご清聴ありがとうございました

